

# 単身赴任のイメージ調査

——— 女子短大生を対象にした調査結果 ———

旭川大学短大 金田 正一

目的 単身赴任は、非雇用者として働いている夫（父）または妻（母）が、本来一緒に生活するはずの配偶者や子どもと離れて単身で遠距離にある勤務先に出かけ別居している状態と定義できる。単身赴任者は、1960年代以降の高度経済成長時代に急増し、総務庁統計局の推計によると1990年には約45万5千人にまで達している。単身赴任を選択する主な理由としては①子どもの教育②持ち家の管理③老親の介護④妻の就労があげられ、その影響は、主として①親子関係②夫婦関係③家計といった側面から問題にされることが多い。本研究の目的は、将来妻としてこの問題に直面する機会が多いと予測される女子短大生の単身赴任についてのイメージを調査することである。

方法 女子短大生110名を対象に質問紙法で調査を実施した。

結果 主な結果は以下の通りである。字数の都合で次のように表記する。全体をA、親の単身赴任経験有をB、親の単身赴任経験無をC。I単身赴任のイメージとしてあげた言葉数の平均は、B5.1、C6.4、A6.2で、3～8語の者が多い。II単身赴任という言葉聞いて最初に頭に浮かんだ言葉はA①さみしい・孤独（22.6%）②浮気・不倫（15.4%）③父親（13.6%）である。Bでは父親と一人暮らしが一位になっている。第3順位までに書かれた言葉をトータルするとA①さみしい・孤独（54.5%）②浮気・不倫（44.5%）③一人暮らし（32.7%）の順で、以下④父親⑤大変⑥自炊となっている。III単身赴任のイメージを色彩で表現するとA①灰色（48.1%）②青（10.9%）③黒（6.3%）の順で、暖色をあげた者はごく少数である。発表時は4年制大学男子学生および父母の調査結果との比較についても触れたい。